

スタッフ紹介



平成 29 年 10 月からお世話になっております、音楽療法士の **久米純子**（くめ じゅんこ）と申します。

皆さまに少しずつ顔と名前を覚えていただき、お声かけくださることが増えて嬉しく思っております。

私が渡邊先生そしてでんでん虫と出会ったのは、遡ること 8 年前。知人の“熱心な推し”により見学を決意し、受け入れていただいたことがきっかけです。「ここで仕事がしたい！」と思うほどの衝撃と感動を忘れられずに働く機会を伺っていたところ、再度渡邊先生と再会するご縁があり、勇気を振りしぼって働く覚悟（！）を決めました。

今は試行錯誤と反省の日々ですが、でんでん虫に関わる皆さまと音楽する時間を通して、共に成長していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします！ 

平成 30 年 4 月からお世話になります。 **小野寺 花純**（おのでらかすみ）と申します。

東京出身で東京在住ですが、大学が神奈川だったため、でんでん虫のある登戸も何となく身近な土地に感じながら日々通勤しております。

私は高校生の時から音楽療法士を目指していました。大学の音楽療法の実習で多くの方々に関わり、一緒に音楽の時間を過ごす中で、より多くの方と一緒に音楽の時間を過ごしたいと強く感じるようになりました。その中でご縁があり渡邊先生と出会い、でんでん虫に声をかけていただきました。

まだまだ未熟で戸惑う部分も多くありますが、元気にみなさんと一緒に楽しく過ごせるように精一杯頑張ります。

よろしくお願ひ致します!!  

自己紹介を改めてさせていただきます、音楽療法士・臨床発達心理士の **鈴木はるみ** です。平成 29 年度から、火曜日の外来療育を担当しています。

渡邊さんとは、お互いに旧姓のころからの知り合いで、でんでん虫との関りはとても長く、以前なごみ保育園で音楽をしていたお子さんは、もう二十歳を超えました。また、私の勤務していた北海道の大学にはボルケーノに来ていただいたり、『でんでん虫の家町田』との関りは 16 年目入っていたりと、様々な場所で『でんでん虫』と関わってきました。今後は定期的にお付き合いさせていただく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。



私事ですが、この度 8 年間お世話になったでんでん虫を卒業することになりました。音楽を通じて、様々な方にお会いでき、たくさんのことを学ばせて頂き、あっという間の 8 年間でした。力不足でご迷惑をおかけしたことも多々あったと思います。でんでん虫で経験させて頂いたことを忘れずに、今後に活かしていきたいと思っております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

吉野紀子

～ホームページ開設のお知らせ～

この度、療育相談でんでん虫・子ども相談室でんでん虫は新規にホームページを開設いたしました。でんでん虫でのイベント・行事などのお知らせを随時更新していきます。どうぞご活用いただき、ご意見・ご要望等ありましたら、お気軽にスタッフまでお声かけください。

URL <http://nagomi-denden.com/> QR コード▷



社会福祉法人なごみ福祉会 療育相談 でんでん虫

36 歩



2018 年 6 月発行

〒214-0012 川崎市多摩区中野島 4-3-28 TEL : 044-911-2612

FAX : 044-911-0462

Mail : dendenmushi@nagomi-fukushi.or.jp

みなさん、お元気ですか？

平成 29 年度は『でんでん虫』36 年目の年でした。1 年を振り返ると本当にたくさんの方々との出会い、新たなつながりが増え、様々なことに取り組んだ 1 年だったと思います。

施設支援・学校支援を通じてのつながりは、その場の実践だけでなく、その後の対応の相談や相談支援の連携に大きく役立っていると実感しています。

それぞれの施設のスタッフさんや学校の先生方と行なった振り返りや勉強会での話し合いは、回を重ね、やりとりを重ねることで、共有することの出来る「思い」が増え、良い方向へのスパイラルが出来上がっていくのだということを何度も感じた 1 年でもありました。

スタッフ研修では、お茶の水女子大学の青木紀久代先生（発達心理）・ベルリン芸術大学の Dr. カーリン・シューマッハ（音楽療法）をお招きして「自閉症児の関係性の質」について勉強するという、とても充実した時間をいただきました。

1 月には法人内の実践報告会が行われました。まずは、保育事業部、せせらぎ沿線事業部（多摩川あゆ工房等）、夢花事業部（夢花工房、ドリーム等）地域療育事業部（でんでん虫）の各部署がお互いの活動を知る、ということから始まった報告会でしたが、各部署の発表内容はどれも、「共に生き、共に育つ」「地域の中であたりまえに」の思いが詰まった、とても良い発表だと思いました。

取り組みの方法は様々あり、状況に合わせての臨機応変さも大切です。でも、そこにこの「思い」の共有があることで、「思い」が日々の取り組みの中に活かされていくのだと思います。

これまでも『でんでん虫』が大切にしてきた、

- ① 障がいの種別、程度を問わない
- ② 期限を切らない
- ③ 利用する方々の地域生活を応援する
- ④ 充実した療育プログラム、余暇支援のプログラムを提供する
- ⑤ 福祉の情報提供、啓発活動に取り組む 等

を更に深めていくためにも、『療育相談でんでん虫』の外来療育・学校支援・施設支援、『子ども相談室でんでん虫』の相談支援、いずれも明確な目標（思い）を持って、取り組んで行きたいと思っております。

最後になりましたが、新たにホームページを立ち上げました。まだ、十分なものにはなっていませんが、ご活用いただければ幸いです。

（地域療育事業部 代表 渡邊紀子）



<活動実績数>

■外来療育

	提供プログラム	利用人数	回数	年間延べ数
1	外来療育(個別・グループ)	104	19~22	2080
2	健康体操	15	21	315
3	YYプロジェクト	10	20	200
4	太鼓クラブ	12	12	144
5	土曜親子リズム	4~8	11	66
6	サイエンスクラブ	8	12	96
7	スマイル	4	22	88
	合計			2989

■法人内他部署との連携:音楽活動、職員研修

1	あゆ工房 (集団 50・個別 101)	151
2	夢花工房 (集団・デイリー・パーカッション)	109
3	なごみ保育園	47
4	太子堂なごみ保育園	22
5	梅ヶ丘なごみ保育園	24
6	北烏山なごみ保育園	21
7	児童デイサービスドリーム(週 2 回)	97
8	ドリーム2	2
9	児童発達(85)・放課後デイ(127)ここから	212
10	子育て支援センターページブル親子リズム	12
	合計(回数)	697

◆ 夏期特別プログラム

今年度も講師の先生方をお呼びしての楽しいプログラムを行いました。

★木工：大前先生 5 組 10 名

★フラダンス：柳澤先生と HULA アコアコアの皆さん 4 組 8 名の親子と、KOKONARA 利用者、あゆ工房利用者が楽しみました。

★和太鼓：5 組 10 名

★リズム：2 組 4 名はでんでん虫職員が実施。

近年、保護者の就労、放課後デイサービスの充実など、各家庭や子どもたちの夏休みの過ごし方も変化しました。30 年度はこれを踏まえ夏期の時期の外来療育を含めプログラムを検討していきます。

◆ 学校・施設等団体への支援 (音楽による集団活動やスタッフへの研修)

●学校:32 校 (小学校 30 校・中学校 2 校) 172 回 (反省会含む) ●施設・団体：15 箇所 184 回

●その他 (スタッフや教員への研修、地域親子へのリズム等)：10 箇所 22 回

◆その他の活動

●ソレイユ川崎祭りボルケーノコンサート ●Happynotes チャリティコンサート ●でんでん虫 Xmas 会
●ポプラの音楽会 ●各研修への参加 ●夢花まつり・あゆ祭り (栗原敦子)

子ども相談室でんでん虫 044-911-2612 denden-soudan@nagomi-fukushi.or.jp

福祉サービスの情報や保・幼・学校関係との連携や卒後の事業所でのことなども連携をとっています。
外来療育利用の方だけではなく、相談だけでもお受けしています。
幼児小学生～成人まで対応していますので気軽にお声かけ下さい。

<子育てセミナー>

毎月第 3 金曜日に地域の親子 (1 歳から 3 歳くらいのお子さん対象) 約 30 組と共に音楽によるリズムの集団活動を行っています。

回を重ねることで、1 歳児が 2 歳児になり、またお母さんの後ろに隠れていた子が、自力で楽しむようになった姿が見られます。

音楽の力を使い、親子で楽しい時間を共有する。楽しさから自分の力を使いやりたいことに取り組む経験は、幼いこの時期であっても意欲と育つエネルギーにつながっています。上手に何かが出来ようになることをもとめられる前に自分がやりたいと思ったことにチャレンジして、楽しい!面白い!やった~!と思った達成感や喜びを身近な人(ここではお母さん)と共有できた時の実感は後の子どもたちが何かチャレンジする時の力の基になるでしょう。

お母さんたちにとっても子どもとの集中したやり取りによって得るものは、時に嬉しく子どもの新たな一面や成長した姿をみる機会になっています。子育てに向かう母親が子どもの成長を前向きに捉え、母親自身も誰かと楽しい気持ちを共有したりすることは、お母さんの子育てに向かうエネルギーを支える事にもなります。

単発的な活動ではなく継続して参加できるように毎月行うことで、子どもの様子や成長をお母さんたちと共有するだけではなく、何か心配が出来たときにもすぐに対応できます。それを親子と日常に関わっているページブルスタッフと様子や課題を共有しながら取り組むことで、途切れない支援につながっています。

(栗原敦子)

<でんでん虫サイエンスクラブ>

今年度は講師が網倉先生(あみんこ先生)から新しく藤高先生に代わり、装い新たな「でんでん虫サイエンスクラブ」となりました。

でんでん虫のサイエンスは藤高さんの旅行先の素敵な写真をみんなで見て、「ふじさんはこんなこと考えたんだけど」とお土産話から始まります。子どもたちはみんな「それで?それで?」と話にも写真の場所にも興味津々です。今年度は「音ってなんだろう?」や「ジャイロ(回転)のひみつ」「雲を作ってみよう」など、たくさんの科学をみんなで楽しみました。特に、「煮干しの解剖」では子どもたちが「え、こんなやっついいいの?」と恐る恐るつまようじで身を割ったり目をつついたり奮闘していました。煮干しにも心臓や胃があり、「え~こんなにしわしわになってるよ」と笑いながら真剣に取り組んでいる様子が見られました。

(八嶋佐紀子)



いろんな予想をして「あれ?」「どうかな~?」と実際にトライしています!

